

連議確品黨民自

内閣官房に態勢整備

了提  
承言

1月中旬までに工程表

（古賀誠会長）は19日、  
党本部で総会を開き、品  
確議連制度検討部会（会  
長・金子一義部会長）が  
示した「公共工事の品質  
確保に関する提言（素  
案）」を了承した。提言  
には、「予定価格や最低制  
限価格の事前公表の見直

最低制限価格の引上げなどを盛り込み、今後は、政府に対して提言を提出する。また、提言の内容を実現するため、内閣官房に態勢を整備して、2008年1月中旬までに工程表を作成するよう求めていく。

もあり、市町村で導入が「くじ引き入札で公共工事の受注は宝くじを当てるようなもの。経営は運営を天に任せるような状況」との現状認識を示した。

信秋参院議員は「地方治体は総合評価方式と最低制限価格制度が両立しないと誤解しているため、総合評価方式より最低制限価格を選んでいい」と説明。このため、提言では、自治体に対し、総合評価方式導入の際、

また、自治体での一般競争入札の拡大でダンパリング（過度な安値受注）が多発する恐れがあることから、失格判断基準や最低制限価格を経費項目別に設定したり、その額を引き上げることも求めている。

度を20日以降の郵便入札から試行することを明かにしている。

下限の3分の2だけで、最低限価格を設定する傾向が見受けられ、問題視されている。

下限の3分の2だけで、最低限価格を設定する傾向が見受けられ、問題視されている。

総会でも出席議員が、「応札価格が予定価格の3分の2に張り付く傾向にある。入札の不調も相次いでおり、最低限価格を引き上げるべき」といった声が上がった。

08年1月中旬までに作成することを求めた工程表には、提言を踏まえた各省庁の対応などが盛り込まれる見通しだ。

佐藤参院議員は「予定する」とを求めている。

「変動制最低制限価格制度」を導入し、▽直接工事費▽共通仮設費▽現場管理費▽一般管理費の4項目それぞれに失格基準を設定したほか、長崎市でも応札額の平均値

場管理費相当額に5分の1を掛けた額の合算額とし、その幅を予定価格の3分の2から85%までに設定している。

ただ、一部の自治体には中央公契連モデルで示